

成人になって



土屋 智紀
(宝米)

今、大学では経済学を専攻し、政治や経済の仕組み・成り立ちについて学んでいます。学んでいくうちに、現在の政治、経済への関心と理解が多少なりとも深まりました。

また、同じ事を学ぶ中で新しい友人も多く増え、中学や高校までとは違い、他の都道府県の全く異なった言葉や習慣等

に触れ日々刺激を受け、自分自身も今までとは少しずつ変わって来ているように感じます。

成人し、社会的な責任が増え、一人前と見られる歳になりました。私は今すぐ社会に出るわけではありませんが、もう周りからは一人の大人として見られるんだという事を自覚して、自分の行動に責任を持つていかなければと感じています。

残り2年の大学生活の中で自分を見つめ直し、自分の本質、自分の目指すものを固め、これからの人生で社会に出て恥ずかしくないように、準備をしていきたいと思っています。

感謝の気持ち



山崎雄一郎
(台)

成人式を迎え、想うことは、温かい気持ちで見守ってくれた家族ややさしく接してくれた友人達、そして私に関わりを持って支えてくださった方々への感謝の気持ちです。

私は幼少の頃より、周囲の皆様に多大な御迷惑をお掛けしてきました。特に、父と母にはいつも頭を下げさせてばかり

で、大変申し訳ないという気持ちでいっぱいです。

この日を迎え、今まで心配ばかり掛けてきた父と母に、1人前と認めて頂けるような成人になるよう、これから心掛けていきたいと思っています。

また、今私達は大人へなるための出走期間に立っています。今後、様々な困難が待ち受けているとは思いますが、やるべきことを1つ1つ確実にこなし、未来を切り開いていきたいです。

自分なりに大人が何かを見極め、その実現に向かい、様々なことに挑戦し、経験しながら知識を得、自分の目指す大人になるため更なる努力をし、夢を実現させていきたいです。

二十歳の決意

成人となつて



藤城 吉徳
(宮内)

大学通学のため、光町を離れ、遠くに住んでいます。高校生までは「こんな不便なところは飛び出したい」といつも思っていました。しかし、今は駅もない田園の町が恋しく感じてなりません。それは、やはりこの故郷での思い出がとても深いものであるからだと思っています。

私がいない間に光町も随分変わりました。

した。銚子連絡道路の建設が進み、サッカー場が小さい公園に作られています。しかし、変わらない事もあるんだと思います。それは私たちがこの町で育ったという事実です。昔と変わらず迎えてくれる仲間たちの存在はこの町で私が育ったという証であり、私自身の誇りでもあります。遠くに住んでも、自分に帰る場所があるというのは本当にありがたい事であると思います。

そして、今後、私たち新成人が支えていく事になるであろう「故郷」の事を思い、成人した意義を考えていきたいと思っています。

夢実現から今後の抱負



伊藤 佳美
(尾垂六区)

両親が共働きで幼少期を保育園で育つため、担任の保育士が大好きでした。私のたくさんの甘えを受け止め、見守ってくれていたように思います。そして、幼い頃から保育士になりたいと憧れ、また、大好きな母親も保育の現場に勤めていましたので、夢を実現したくて短大に進学することを決めました。

一年生では、実習体験からの学ぶ学習、二年生では、幼稚園・保育園・施設で実習をしました。保育とは、子ども・家族・保育者が子どもを軸に結ばれ、理解し合い、向き合うことが求められます。保育者もそこで学び、成長するのだらうと思っています。

私は、今年の春から生まれ育ったこの光町で、念願の保育士として勤めることが決まりました。子どもそれぞれを深く理解することを求め続け、私が受けてきたたくさんの人達の愛情をブレゼントすることのできる保育士になりたいと思います。